

## 計画策定にかかる意見交換会（地域福祉を考えるワークショップ）について

### （1）目的

「（仮称）みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン3」の策定にあたり、地域の方が感じている課題や、望むこと、地域福祉のためにできることなどを確認し、計画内容に反映することを目的として、各地区で意見交換会を開催しました。

### （2）会の概要

実施期間：

令和6年11月～令和7年3月

開 催：

意見交換会は地区単位で開催とし、各地区での周知・参加呼びかけ等を含め、

13地区の地区社会福祉協議会の協力をいただきました。

なお、一般への開催周知は、市広報（令和6年10月号）への掲載としました。

参 加 者：

自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの地域団体からほか、ボランティア関係者、地域包括支援センター、福祉施設・事業所などから、13地区で403名の参加がありました。

意見交換・集約の方法：

「みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン2」の概要を説明したのち、次の2つのワークテーマについて各グループで、付せんを使って意見やアイディアなどを出し合いながら、意見交換を行う形としました。

- ① 「この地区で取り組まれている活動」を共有する
- ② ①を踏まえ、「これから地域での支え合いに必要なこと」について意見を出し合う

#### グループワーク① 地域で取り組んでいることをシェアする



##### 【ポイント】

- ・地域で取り組んでいることで知っている取り組みはありますか？
- ・参加している取り組みはありますか？
- ・身近に感じる「地域の支え合い」「地域のつながり」はありますか？

#### グループワーク② これからの地域の支え合いのあり方と そのために必要なことを考える



##### 【ポイント】

- ・グループワーク①「地域で取り組んでいること」を意識して
  - ・将来に残していきたい取り組みはありますか？
  - ・取り組んでいく中で、大切にしたい視点はありますか？
  - ・さらに充実させたいことはありますか？
- そのためには、どんなことができるでしょうか？

各グループワークで出された意見は基本目標ごとに整理し、集約することとしました。

## 【グループワークの意見より 基本目標ごとのまとめ】

### 基本目標1 つながる

\*自分と異なる人を理解・受け入れること／ギャップを埋める・交流などが大事

- ・新しい人、外国人を受け入れる体制・気持ち
- ・外れている人をどう取り込むか

- ・サロン・多世代交流を増やしたい
- ・子育て不安の方によりそう

\*日ごろの関係づくり、まず、あいさつ

- ・あいさつ運動、声かけで顔を繋いでいく
- ・近隣相互のコミュニケーション
- ・犬の散歩(=日常)から交流が生まれる

\*大切なのはきっかけ・場所

- ・近く(歩いて行ける)・楽しめる
- ・だれでも・気軽さ・選べる・柔軟さ
- ・いつ行っても誰かがいる場所を作りたい

\*地域行事・伝統行事を活かしたら

- ・出(たがら)ない人をひっぱり出す⇒お祭り！
- ・もちつき 子どもや地域のつながりのため
- ・歴史を伝えることの大切さ・継続が大事

\*気になる人に、どう声をかけていくか？

- ・新しく来た人、男性、若い人、障がい、認知症など…来てほしい人がきてくれない
- ・きっかけになるメリットを
- ・他世代・他団体同士の交流を図る

\*アクセスなどが課題

- ・歩くの大変 行けない・出かける足の問題

\*つながる方法も変化している

- ・メール、LINE、web会議・アナログも
- ・新しいコミュニケーションツールの説明会

\*魅力的な活動、負担の軽減も大事

- ・やってて楽しい、楽しそうと思わせる活動
- ・もっと知ってほしい 魅力のアピール
- ・役員、世話役の負担を減らす

- ・子どもの時から他年代で関わる場づくり

<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆多様性の理解促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・交流による相互理解の促進</li></ul>
◆出会い・つながりづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・出会いが生まれるきっかけづくり</li><li>・多様な居場所づくり</li></ul>
◆つながりの継続	<ul style="list-style-type: none"><li>・つながり続ける工夫</li></ul>

## 基本目標2 活動する

\*今やっていることを みんなに見てもらう

- ・いろいろな情報を入れる ・SNS発信（誰がやる？）・広報ターゲットをしづる
- ・活動のベース 自治会での情報共有が大事 ・誰もが情報を得られるシステムを作つて

\*活動の意義、やりがいを伝える

- ・何のために活動するのか
- ・使命感 →活動が楽しい →役に立つ  
ことがうれしい →だから長続きで  
きる この想いをつないでいく

\*自分を活かせる、ちょっとでも…を伝える

- ・趣味、できること、昔の経験が活かせる
- ・スポット参加OK ・全部じゃなくて一部
- ・個人で参加できる ・ゆるさが大事！
- ・気軽に ・自由に、自主的に

\*やりたくてもやれない …担い手不足

- ・まずは見に来てほしい →まずつながる一歩を何から出来るか ・継続のためにスリム化
- ・分担 皆で助けあう←やれることをやれる人がやる ・団体同士のつながり

\*子ども（小中高生）の活躍の機会も

- ・福祉まつりに中学生が司会、吹奏楽、似顔  
絵で参加
- ・避難所運営をこども達にやってもらう
- ・防災リーダー 中学生くらいからできるの  
では？
- ・お菓子などの配布 きっかけづくり

\*現役世代とつながるには

- ・土日休日の活動
- ・地引網、もちつき、家族参加できるイ  
ベント
- ・子育て世代の参加を増やす
- ・おみこしにはなぜ若者が来るのか  
→担ぎたい →飲み屋で誘われた

\*間口を広げるアイディア

- ・高齢者と子どもがバーチャルで繋がる ・“会”とか“場”にかわるツールで運営する
- ・福祉の出前サービス 歌声喫茶 自治会に出張
- ・魅力的なイベントを実施（大人の） ・伝統が絡むとなくならない？

<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆地域活動の活性化につながる情報発信	・参加・活動したくなる情報を届ける工夫
◆地域とつながる人を増やす 多様な参加の機会づくり	・多様な主体ができる仕事を活かせる機会の拡充 ・担い手の育成・支援

### 基本目標3 支え合う

\*共に支え合う 地域で取り組めることを話し合う（検討する）ことが大事

- ・活動内容の共有の場
- ・閉じこもっている人に対して出て来てほしい どうしたら良いか? ⇒話し合える場が大事
- ・普段のつながりが変化に気づける（ボランティアの利用者が逆に自分を見守っていてくれる）
- ・高齢者の家の付近が片付いているか気にかけていく

\* “支え手・受け手”を超えて 共に支え合う

- ・支えるから支えられるにも →これまでサロン等運営側だったが参加者に
- ・普段の隣近所のつながりが災害時にも役に立つ  
…女子会 一緒にお昼を食べてお話し
- ・ピンチに助け合える体制

\*現役世代との協働が必要

- ・若者サロン 居酒屋ワイワイ スナック eスポーツ bar

\*団体の枠をこえる

- ・各組織、団体の活動の共有化…お互いの理解を活用する
- ・皆で同じ LINE にする

\*地域を知ってもらい、他との協力を

- ・企業理解の促進（地域活動に対する）
- ・地元企業との強力なコラボレーション

<現時点での次期計画の方向性・取り組み>

取り組みの方向性	主な取り組み
◆地域の課題に地域で取り組むことができる体制の拡充・強化	<ul style="list-style-type: none"><li>・ネットワークの拡充・強化</li><li>・本人や世帯からの視点を尊重した支援体制づくり</li></ul>
◆本人・世帯を中心とした相談支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・本人らしい暮らしを支える体制づくり</li><li>・福祉的な関りで地域社会での暮らしを支える体制づくり</li></ul>
◆地域で暮らし続けることを可能とする仕組みづくり	